



### 分業の中遅れる日本

最近、半導体に関する話題が多くなっている。「半導体の供給が足りなく自動車の生産が制約を受けている」「台湾の半導体製造の大手企業の台湾積体回路製造(TSMC)は半導体製造で世界最大規模になっているが、米中の対立の中で同社の置かれている位置が重要性を増している」「TSMC社の工場を誘致するため、米国や日本の政府は積極的に動いている」。このような記事を読んだ読者も多いだろう。

半導体は産業のコメと呼ばれるように、あらゆる製品に組み込ま

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

れている。パソコンやスマホはもちろん、通信機器、自動車、家電製品、製造機械設備など、あらゆるものに利用されている。今や半導体なしでモノづくりは不可能である。半導体が不足気味で生産が滞っている自動車がよい例だ。石油がなければ経済活動ができないように、そして食料がなければ私

取っている。信越化学や東京エレクトロンのように半導体の素材や製造機器のメーカーでは世界のリーダー的な存在の企業は多くあるが、半導体の設計では欧米の企業が、そして製造の分野では台湾や韓国の企業に大きく差をつけられている。

なぜ日本は遅れてしまったのか、その分析は専門家に委ねたい。ただ、住宅が設計士による設計と工務店による建設に分業されているように、スマホやパソコン用の半導体の設計は欧米が、そして精密な製造では台湾や韓国がリードしている。そうした国際分業の中での競争に日本はついていくこと

ができなくなっている。台湾のTSMCが話題になることが多いのは、この企業の生産なしに世界の半導体の多くが手に入らないからだ。別に同社が半導体の全てを独占しているわけではないが、国際分業の中で最終的な生産の部分の多くが同社に集中しているからだ。同社の技術に対抗できるように生産メーカーが他にはないの

## 半導体不足と供給網

たちの生活は成り立たないように、半導体がなければ工業生産は不可能な時代になっている。

さて、こうした中で日本はどうしたらよいのだろうか。石油や食料と同じように、半導体が日本に確実に入ってくるよう、サプライチェーンの強化が求められる。日本が得意な分野を強化することが必要ということだ。

得意分野の強化必要

に、日本でも半導体の生産を復活させる取り組みを強化することができるはずだ。台湾の企業を利用しないということではない。半導体にも多様な種類があるので、日本が得意な分野を強化することが必要ということだ。

が原因で日米貿易摩擦が深刻化したほどだ。残念ながら、今や日本の半導体産業は多くの面で後れを

か、その分析は専門家に委ねたい。ただ、住宅が設計士による設計と工務店による建設に分業されているように、スマホやパソコン用の半導体の設計は欧米が、そして精密な製造では台湾や韓国がリードしている。そうした国際分業の中での競争に日本はついていくこと

ができなくなっている。台湾のTSMCが話題になることが多いのは、この企業の生産なしに世界の半導体の多くが手に入らないからだ。別に同社が半導体の全てを独占しているわけではないが、国際分業の中で最終的な生産の部分の多くが同社に集中しているからだ。同社の技術に対抗できるように生産メーカーが他にはないの

ある。それに加えて、TSMCの次に競争力があると言われる韓国のサムスンなどからの調達も強化する必要があるだろう。ただ、石油と半導体が異なるのは、石油は日本で生産できないが、半導体は日本国内で生産する可能性が残っているということだ。日本もかつては半導体の生産能力で世界のトップクラスの位置にいたことがある。米国が米国内での半導体製造を強化するために膨大な資金を投じようとしているように、日本でも半導体の生産を復活させる取り組みを強化することができるはずだ。台湾の企業を利用しないということではない。半導体にも多様な種類があるので、日本が得意な分野を強化することが必要ということだ。

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。